



「人として生きていくための勇気と自信を培うサポート活動」

「40歳くらいまでのひきこもり経験者・不登校・学校中退・対人不安・心理面サポートを必要とされる方への居場所提供・フリースクール活動・個別指導学習サポート・家庭教師・家庭訪問・カウンセリング面談・各種相談活動」

「呪（シュ）」のはなし

「夢枕獏」氏の小説「陰陽師」の中で阿部清明が何かにつけて「それは（それも）呪（シュ）だ……」と語るシーンが出てくる。

物語の中では「その人が、そうだと思っ込んでいること」も「何かを名づける（名称を与えること）」も清明に言わせると「呪（シュ）をかけること」（呪詛）になるようだ。

或る所で生じた一連の出来事は、単に事実の連続であり、「そういう事実」に過ぎないのだが、誰かがそれに意味づけをすると、「（単なる）事実」は「（その誰かにとっての）真実」となる。

「真実」の意味を軽くネット検索などすると、「うそ偽りのないこと。本当のこと。また、そのさま。」という説明が出てくる。そして、一般的に「真実は、ただ一つ」と受け止められていて、ドラマやアニメで探偵や刑事などが、「これが真実だ……」とキメゼリフを言って、誰が犯人かを指摘したりする。

しかし、以前から私は個人的に「真実は一つ」という事に違和感を感じていた。「事実は一つ」というのは同意できるのだが、「真実は一人に一つ」と思えるのだ。清明風に表現すると、「真実とは、事実、誰かがかけた呪（シュ）」ということになる。

呪をかけられると「意味の無い、一連の事象の連鎖：事実」は「何らかの意味を持った事象：真実」に変化する。

「意味を持った事象」は「価値を持つ」ことになり、「良い」とか「悪い」と判断されるようになる。

やっかいなのは「良い」とか「悪い」というのが、単独で存在できるものでは無

くて「ある状況の、誰かにとって」と言う前置きがつくという代物だということである。

少し前までは「自国内に留まらずグローバル化することは良いこと」と感じている人が多かったようだが、ここ数年は「自分たちの国の利益を守ることが良いこと」と主張する人が多くなってきている。

これは、「良い・悪い」の前に「ある状況の、誰かにとって、」というコトバがつくので、当然生じてくる「価値判断の変動」ということになる。

そういう問題の調整は、それぞれの国の偉い人に任せておけばいいんじゃないか……と、問題から距離をとることもできたりする。（そういう考え方が問題だったりするが……）

無視できないのは、私がかかっている心理相談とか心理支援という場面にも関係してくることが多いということだ。

成人（や、一定の年齢に達した青年）の「自身の困り事の相談」という場合、本人の意向を確認して、それに沿って問題解決のための道筋を探すことに協力していく（支援していく）ということは（簡単では無いが）ある程度の見通しを立てることも、それが「困った状況の、本人にとって」「良い」のかどうか、協力するこちらにも把握しやすい。

しかし、対象者が、どこかで発達障害とか自閉スペクトラム症と診断されたり、その傾向が無視できない状況であると言われたことのある年少者の場合は事態が複雑になる。

この場合、「困り事の相談」を持ってくるのは家族であることが多い。

社会通念上も権限を認められた代理人であることは確かなのだろうが、「当の本人」では無いということになる。

まずは「困った状況の、家族」としての

真実と、それに対する意向を聞き取った上で、その元になっている事実と一緒に確認していくということになる。

同時進行で「当の本人にかかわる事実」を把握する作業も進めなくてはならない。(話の都合上、思い切り、重要な中間作業を省略してしまうが……。)

心理相談、心理支援というのには、様々な流派があるので、「私の場合は」という前置きを付けた方が良さそうだが……両者(当の本人と依頼してきた家族)が、「より困りごとが少ない(小さい)状況」を目指して協力(支援)することになる。

「支援する」というのは、「対象者の希望をかなえる」ということと考えるのだが、そのためには「対象者が何を望んでいるか知る」ことが必要になる。

そのためには「対象者のことを知る」必要に迫られる。

性格検査とか知能検査とか、「外から知るための道具」もあるのだが、確認したいのは「対象者の中にある希望」なのだ。

コミュニケーションをとることが極端に苦手な状況の本人の、その中にある希望する内容を受取るまでには、場合によると年単位の時間が必要になったりする。

(再び、話の都合上、思い切り、重要な中間部分を省略してしまうが……。)

長いかわりの間に、私の側に「呪(シュ)」がかかってしまうことがある。

「この子(対象になっている当の本人)」は、「集団に入れない」「先生の指示に従えない」「決まった一定の行動しかしない」「自分の意思を表現することができない」という人なのだという見方に傾いてしまうことがある。

この見方に、どういう「呪(シュ)」がかかっているかという、「ほんの僅かなコトバの違い」という「呪(シュ)」なのだ。

「この子は、集団に入れない、先生の指示に従えない、決まった一定の行動しかしない、自分の意思を表現することができない」という呪詛を唱えてしまうと、「では、どうすれば良いか」という次の「呪(シュ)」がかかってくるのだ。

そして、「集団に入らせるにはどうするか」「指示に従わせるにはどうするか」「多彩で柔軟な行動ができるようにするにはどうするか」「意思を表現させるにはどうするか」という呪詛のコトバが次々と浮かんでくるのだ。

この時に「対応者(こちら側)」は、確かに「対象者(当の本人)」のことを考えているのだが、「対象者のことを考えているのに対象者から逸れている」ということにもなってしまうのだ。

私はこの「呪(シュ)」がかかりそうなとき、あるいはかかっているのでは無いかと気になったときに、「呪(シュ)」を祓うためのコトバを使う。

ただし、それは清明風に表現すると「それは、呪(シュ)を祓うために、新たな呪(シュ)をかけたに過ぎない」ということでしか無いのだが、それでも一瞬、自分を元の位置に戻してくれる役にはたっている。

どういうものかという、「ほんの僅かなコトバの違いという呪(シュ)」に対して「ほんの僅かなコトバの違いという呪(シュ)」を使って「呪詛返し」をするのだ。

「集団に入れない」を「集団に入ろうとしない(入りたがらない)」、「先生の指示に従えない」を「先生の指示に従わない」、「決まった一定の行動しかしない」を「決まった一定の行動をしたがる」、「自分の意思を表現することができない」を「自分の意思を表現しない(表現したがらない)」というように、「できる・できない」というコトバを「する・しない」というコトバに置き換えるのだ。

こうすると「では、どうすれば良いか」という「呪(シュ)」を祓って、「なぜ、そうなのだろう」という当の本人のことを考えることに戻って来ることができるのだ。

ただ、やはり、清明風に表現すると「ヒトというのは、祓っても、祓っても、呪(シュ)から逃れることはできないものなのだよ」ということにはなってしまう。

博雅：「それでゆくしかないのか」

清明：「それでゆくしかないであろうよ」

そういうことになったのである。

イベント紹介・報告

○ 健康体操教室

9月19日・10月17日 実施
運動・ストレッチ・ヒーリング棒でのヒーリングを実施しました。
腸から体を健康にしていきましょう。
12月は日程が変更で12月5日、1月は通報どおり第3水曜日実施予定です。



◆ 学食・出かけよう・体を動かそう合同ミーティング実施 9月13日

○ 学食 Walk

10月21日 特別編 京都橘大学学園祭
10月24日 同志社大学田辺 →参加者不足で延期
同志社はまたどこかでリベンジ実施したいです。学園祭は過去龍谷大学・佛教大学に続き3回目でした。舞台の様々なプログラムは盛況でした、模擬店も安くおいしく、女子の利用生は平安衣装体験などもしました。



○ 出かけよう（仮称）

9月30日 奈良公園・若草山・東大寺
参加者不足で延期
10月8日 ピクニック 京都競馬場
奈良はまた実施したいですね。京都競馬場は芝生の場所もあってのんびりとピクニックをしながら目の前を走る馬を見る・・・のが参加した大人は馬券も購入し、熱狂・・・(笑)でもほとんどの時間はのんびりでしたよ。



○ 体を動かそう（仮称）

9月22日 外で遊ぼう 京都御苑で
キャッチボール・バレーボールなどで遊びました。
10月7日 銅駝学区民体育祭参加



歩プロジェクト 単発実施活動

○ 岡崎フリマ参加

9月23日・10月20日実施
今年度はリユース活動で実施している寄贈品が例年以上に多く寄せられ、フリマ参加回数を増加しています。
お客さんとのコミュニケーション・準備・片付けなど様々な社会経験になると思います。参加者の方お疲れ様でした。



○ ハロウィンパーティ

10月27日実施
今年で3年目です。特に当所は仮装はしていません(笑)。トリックオアトリートということでお菓子争奪ゲーム会を実施。前半は隠してあるクイズを取ってきてチーム対抗のクイズ合戦。後半は絵柄がハロウィン使用のビンゴ大会でした。そこで稼いだポイントで皆さんお菓子を持って帰っていただきました。



○ パレット河原町清掃活動

毎月第2金曜日実施。この2ヶ月は参加者無し。

○ レク日

9月1日・6日・15日・20日・27日
10月6日・11日・25日
レク日はイベントではなく通常の居場所提供日の中で内部生以外(利用生500円・その他700円)でも参加が可能な日であると同時に音が大きく出るもの(カルム・TVゲーム・麻雀など)もできる日です。

ものづくりかふえ

歩プロジェクト定期活動

9月21日・10月19日 実施
9月はLPWさんからいただいていたマッチ箱に参加者で絵を描いてみました。先日描いた絵をお渡ししてきました。10月は羊毛フェルトをフェルト生地絡ませて作品作りを行いました。



フェイスブックページ
<https://ja-jp.facebook.com/ksce.apollo>

Twitter ID 「ksceleader」
ブログ http://ksce.jpn.org/?page_id=1234

KSCE 全般もしくは通信に関するお問い合わせ・ご意見は、下記までお願いします。

E-mail の場合 soudan@ksce.jpn.org、TEL/FAX の場合 075-211-0750、郵便は〒604-8005 京都府京都市中京区三条河原町東入ル恵比須町 439 早川ビル 6F 京都教育サポートセンター KSCE 通信係 まで。

2018年11月12日発行 特定非営利活動法人 京都教育サポートセンター